

研究タイトル：

地方における文学・出版文化の研究



氏名：	辻 秀平／TSUJI Shuhei	E-mail：	s-tsuj@yonago-k.ac.jp
職名：	助教	学位：	修士(文学)
所属学会・協会：	日本近代文学会、日本近代文学会関西支部、昭和文学会、解釈学会、全国大学国語国文学会、川端康成学会、東アジア文化交渉学会、阪神近代文学会、関西大学国文学会、占領開拓期文化研究会		
キーワード：	近現代日本文学、戦後文学、出版文化研究、地方(地域)文化研究、書誌学、鎌倉文庫		
技術相談 提供可能技術：	<ul style="list-style-type: none"> ・日本文化・文学。特に明治時代以降の近現代日本文化・文学や、創作に関すること。 ・書籍や新聞、雑誌メディアといった出版物や出版文化の調査・研究に関すること。 ・書籍、定期刊行物、地域資料を中心とした、人文社会科学系データベースの活用法。 ・国語科教育、特に現代文教育(小説・評論・文法等)に関すること。 		

研究内容： 地方における文学・出版文化の研究
研究概要

私は主に明治時代以降の日本における文化や文学を研究しています。特に、日本初のノーベル文学賞作家であり、国際的にも著名な作家・川端康成(1899～1972)の文学活動を中心に、1930～1970 年代の日本における文学や出版の動向に関心を寄せています。

地方における文学・出版文化研究:「鎌倉文庫」を起点に

敗戦後の GHQ による占領から高度経済成長期にかけての日本では、雑誌メディアが大きな社会的影響力を有していました。東京や大阪のような大都市圏だけでなく、地方においても有志や地元メディアなどが様々な雑誌を発刊し、独自色ある地域文化を創出してきました。近年、こうした地方雑誌の再評価や研究の動きが盛んになっていますが、私はその中でも、神奈川・鎌倉での文化人たちの活動に由来する出版社「鎌倉文庫」(活動期間:1945～1949)に注目しています。地方の貸本店から、全国規模の出版社へと発展した「鎌倉文庫」は、地方における文化的営為を考えるうえでも、様々な示唆に富む存在です。現在はその研究環境の整備のため、資料の収集や目録・索引作成を行っています。

担当科目	現代文 I, 文学 I, 文学III
過去の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・1940 年代の「鎌倉文庫」に関する基礎的調査と研究:地方の文化現象の一例として (JST 次世代研究者挑戦的研究プログラム採択事業・関西大学大学院『豊富な産学連携・地域連携と連動させた「考動力」人材育成プロジェクト』、研究期間:2022～2023 年)
近年の業績 (研究・教育論文、特許含む)	<p>【書籍等出版物(項目分担執筆)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仁平政人、原善(共編著)『(転生)する川端康成 II:アダプテーションの諸相』、文学通信、pp.258-261、pp.279-280、pp.314-319、pp.332-333、pp.343-344、2024 年 4 月 <p>【学術論文】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・辻秀平「川端康成における死者語りの問題系:戦争前後の追悼関係テクストを視座として」、國文学、第 108 号、pp.85-106、2024 年 3 月 <p>【研究ノート】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・辻秀平「貸本店・出版社「鎌倉文庫」(一九四五年～一九四九年)の文化的営為:研究動向及び主要参考文献目録」、千里山文學論集、第 104 号、pp.136-164、2024 年 3 月 <p>【文献索引】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・辻秀平「鎌倉文庫刊『社会』総目次・執筆者名索引(1946 年 9 月・第 1 卷第 1 号～1949 年 5 月・第 4 卷第 5 号)」、千里山文學論集、第 103 号、pp.267-307、2023 年 3 月